



会報

SHINSHIYOU

神私幼

平成24年12月1日

第182号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：(社)神奈川県私立幼稚園連合会
 発行人：会長 渡邊 真一
 編集人：神私幼総務部(広報室)
 発行：年4回(6月・9月・12月・3月)
 発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F
 TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209



2・3

会長のことば

子ども・子育て関連三法への 県連合会としての対応について

●幼稚園連合会会長 渡邊 真一

連載 副会長に聞く

第2回 私の考える県連合会 ●副会長 鈴木 伸司

幼保一体化問題学習会 報告

新制度の理解深めていますか

～幼稚園教育を守るために～ ●県連理事 山口 繁美

4・5

研究部・研修事業部報告

連続講座「園内研修」を終えて

●研修事業部長 岩本 勉

第28回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会
明日に向けて私立幼稚園の振興を考える

VOICE 若手後継者のための保育勉強会

代表者協議会報告

私立幼稚園の現状と課題 ●振興部長 武藤 保之

INDEX

6・7

シリーズ

地区協会長は考える 第2回

●横浜協会 木元 茂

就職相談会報告

幼稚園の魅力を伝える

●経営管理部次長 池田 清

平成24年度神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 研修大会報告

子どもの個性を信じ、リスペクトする

●神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 副会長
浅川 香珠代

教育相談室から

土曜日は巨峰を買いに

●教育相談員 鈴木 敦子

8

Pride of KANAGAWA

研修会報告

会長のことは

子ども・子育て関連三法への
県連合会としての対応について



県連合会 会長
渡邊 眞一

国の動きに翻弄させられた二年間

「子ども・子育て新システム」関連法案は、三党合意によって「総合こども園」から「認定こども園の拡充」に看板を掛け替えて衆議院を通過し、平成二十四年八月一日、参議院本会議で可決成立しました。国会では重要法案がたくさんあるなかでの可決成立。どうして急いだのか、今後いつたいどうなるのか、気になるところです。子育て支援は日本の将来を考えるうえで極めて重要な施策であることは十分に承知しています。しかし、法案の中味が十分に吟味されつくしたといえないなかの法案成立に一抹の不安を抱くところ。今回は政党内閣の思惑や政局絡みで玉虫色の決着を図ったこと、いざどおりの感ももちます。そしてこのような混乱はいつも子どもを取り巻く幼稚園や保育所にそのしわ寄せがくるといえる構図は、もうくりこりです。あまりにも現状の姿を無視した頭越しの施策と言わざるをえません。この機会にも一度仕切り直しをし、子どもが健やかに育ち育てられる視点にたった論議を積み重ね、内容の伴った施策を示してほしいと強く念じます。

さっそく県連も八月から対応

県連では、法案成立を見越して八月一日の午後、関東地区教員研修神奈川大会準備の最中に臨時協会長会議を召集し、私から今後の対応について縷々説明をしたらうえて、緊急の勉強会の開催を提案しました。協会長会議はこれを受け、八月二十九日より三回に亘り勉強会を開催いたしました。勉強会の様子は次頁の『幼保一体化問題学習会報告（山口繁美理事）』をお読みください。

ところで、報告にもあるように、この学習会では県内の市町村にも参加を呼びかけています。今後、私立幼稚園は、幼稚園行政の窓口となる市町村担当者と共に三法を学び、市町村との連携のなかで私立幼稚園の立ち位置をつくってほしいと私は強く念じています。

今後のスケジュール

現時点では国の動向がはっきりとしませんが、県連は今後も大きな流れをお伝えしていきます。各園では、その時々々の動きに注視しつつ、自園の今後の対応について熟考し、自園の方向づけを検討してください。

副会長に聞く

第2回

私の考える県連合会

今年度より副会長に就任した五名の先生方について、私の考える県連の在り方や役割について、という観点からご意見をいただき、シリーズでお送りします。第二回目の今回は鈴木伸司副会長にお聞きしました。



副会長(総務部担当)
鈴木 伸司

前期に引き続き、川崎協会から二期目の副会長を務めることになりました。総務部の担当として安西部長、仁藤次長、渡井財務室長、川崎広報室長に支えられながらも、広範囲に渡る県連事業のコーディネーターとしての役割の重さを日々痛感しています。

小澤副会長を中心に目指してきた県連の重要課題であった公益社団法人化もいよいよ最終段階となり、年内には申請を完了し、来年度からは新しい公益社団としてのスタートを切る予定です。

県下十二協会の連合体として成り立つ県連ですが、やはり加盟全園が安心して日々の幼稚園教育に邁進できる環境を整えていくことが最重要と考えています。きっと皆さんの園運営においても、何かで迷った時は「子どもたちの成長、幸せ」を基本に物事を決めていることと思います。幼保一体化(新システム)についても平成二十七

大きな流れとして

では、平成二十五年四月、国は子ども・子育て会議を設置し、基本方針や認可基準、保育の必要性の認定基準などを審議し、平成二十七年四月と見込まれる本格実施に向けた作業が始まるようです。そして平成二十五年後半から二十六年年度にかけて市町村・都道府県ではニーズ調査を含めた自治体の事業計画の策定に着手し、二十六年後半には具体的な事業計画を策定することとしていきます。このニーズ調査の実施は全市町村に求められており、当県内においても地方版子ども・子育て会議を設置(努力義務ですが)、事業計画策定に向けて行わなくてはなりません。この機会に私立幼稚園のメンバーが加わるこ

幼保一体化問題学習会 報告

新制度の理解深めていますか
幼稚園教育を守るために

子ども・子育て関連三法が衆参両院で可決され、成立しました。幼保一体化の「新制度」のスタートです。

県連ではこの状況を踏まえ、会長の発案により「幼保一体化問題学習会」を三回企画して各園に参加を呼びかけました。更に、新制度において、市町村と私幼とが直接関わりを持つことになりましたので、県下各市町村へも参加を呼びかけました。その結果、神奈川県及び十七の市・町から参加をいただき、参加登録者一〇〇名の学習会となりました。この学習会の目的は、①私幼と行政が共に「新制度」をより理解すること ②共に学習することで行政に私幼を少しでも身近な存在と感じてもらうこと ③これからの「新制度」がより具

体化していく過程で直接関わりを持つのは地区の協会・加盟園になります。今回の学習会は県連として、地区協会・加盟園と行政との関係作りのお膳立てをした意味合いがあります。これをきっかけに行政との関わりを築いて下さい。

「新制度」は早ければ平成二十七年本格的な実施となります。平成二十五年は主に国の準備年度、平成二十六年は主に国の検討内容を踏まえて県・市・町の具体的な準備年度となります。このスケジュールの経過の中で大切なことは平成二十五年以降

Table with 5 columns: 平成24年度, 平成25年度, 平成26年度, 平成27年度. Rows include: 主な動き(想定), 基本方針・事業計画, 認可基準(幼保連携型認定こども園)・確認基準, 保育の必要性の認定基準, 公定価格, 市町村事業, 幼保連携型認定こども園保育要領(仮称), 保育緊急確保事業, 実施体制. Legend: 国で実施 (blue arrow), 自治体で実施 (green arrow).

とが絶対に必要です。十二協会それぞれの状況のなかでの対応を望むところです。いずれにしても消費税が平成二十七年一月一〇日に引き上げられることを前提に平成二十七年から本格実施が想定される現在、今後の動向が気になる場所です。



理事
山口 繁美

各市・町において『子ども・子育て会議』が設置されると思います。この会議に必ず私幼関係者が加わり意見を述べることが必要です。そして、各園は経緯を注視し、慌てないことが重要です。県連はこの様な状況を踏まえて近々に「子ども・子育て新制度対策研究委員会」を立ち上げる予定です。この委員会では「新制度」において私幼が選択し得ると考えられる四つの姿

＊幼児連携型認定こども園
＊幼稚園型認定こども園
＊給付を受けない幼稚園
＊給付を受けない幼稚園(今までの幼稚園)のより具体的な姿を見出したいと考えています。この具体的な内容は加盟各園が自園の方向を決める際の参考にさせていただくことを願っています。全日、県連、地区協会、各園は連携を取り、それぞれの立場で出来ることをして、この難関を乗り越えなければなりません。思いいます。



研究部・研修事業部報告

連続講座

「園内研修」を終えて



今年度も大妻女子大学教授、岡健先生を講師にお迎えして、九月十五日、九月二十一日、十月十七日の三日間で連続講座を実施しました。それぞれの幼稚園で園内研修のリーダー



義と園内研修におけるファシリテーター養成を目的としたワークショップというこの研修会は、きつと参加された先生方も得るものが多かったのではないだろうか。自園の保育の質を高めるためには、伝達型とは違う創発型の職員会議を作っていく必要があるという岡先生の言葉が印象的でした。

今年も充実した連続講座でしたが、残念だったことは三回連続で参加ということが徹底できなかったことです。日程の設定が適切でなかったのかと反省しています。

VOICE 若手後継者のための保育勉強会



去る九月二十六日、県内各地区から総勢三〇名の様々な役職の先生方が参加され、第一回目の勉強会がながわようちえん会館にて開催されました。講演では会長の渡邊眞一先生をお招きし、熱いお話を頂きました。これまで何度も話題に上ってきた実現しえなかった「後継者向けの会」がここようやく開催されたことを会長は大変喜ばれており、これからの幼児教育を担う後継者への力強いエールの言葉に参加者の先生方もとても力づけられていました。

第二十八回 全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会

明日に向けて 私立幼稚園の振興を考える

開催日時 平成二十四年十月二十二日(月)・二十三日(火) 会場 千葉県シエラトンクランデ・トーキョーベイ・ホテル 研究講座一 教育 「良質な幼児教育」の質を検証する パネリスト 岡 健 大妻女子大学家政学部児童学科教授 日本保育学会理事 平林 祥 (財)全日私幼研究機構横断研究チーム協力委員 (学)見真学園ひかり幼稚園主事 藤田喜一郎 全日本私立幼稚園連合会経営研究委員 (学)藤田学園久留米あかつき幼稚園園長

コーディネーター 安達 謙 (財)全日私幼研究機構研究研修委員長 (学)ひじり学園せりひじり幼稚園園長

教育の研究講座に出席したつもりが、いきなり「乳幼児教育への投資の効果」ということから話が始まったため、私は最初、とても違和感を覚えました。しかし、話が進むにつれて、なぜ「投資」という言葉を用いたのか、その意味が少しずつわかってきました。それは、全てが予算で執行される行政へ訴えていくための手段であり、「投資」という言葉を用いた方が、それがたとえ教育にはなじまない言葉であっても、行

政には通じやすいということですが。「教育の質」という数値化できないものを理解してもらうための有効な方法であることを学んだのは、ひとつの大きな成果でした。言うまでもありませんが、幼児教育は、数値化できない部分を育てることに主眼を置きます。しかし、保護者が考えている質と幼稚園が大切にしている質との間には、隔たりがあることも事実です。保護者に「教育の質」を理解してもらうた

めには、「保育参観」を「保育参加」に改め、子どもを見て感じ、体験してもらうことにより、保育者を知ってもらうこともひとつの手法となります。さらには、保護者の参画を得て、より質の高い教育について一緒に考える等、保護者を巻き込んでいくことも必要と感じました。保護者に「この園の教育がいいから入れよう」と言ってもらえるためには、子どものことを中心に考え、これがベストかどうか常に自問自答を積み重ね、質の向上へつなげていくことが最も大切であることを、改めて意識する研究講座でした。

代表者協議会報告 私立幼稚園の現状と課題



振興部長 武藤 保之

第二十六回全日本私立幼稚園連合会 関東地区代表者協議会茨城大会が十一月七日・八日茨城県つくば市で開催されました。

『私幼の将来展望とこれからの行動指針について考える』を協議会のテーマとして関東地区会・神奈川地区会の園長先生方と各県の私学担当者が参加しました。 協議会一日目 開会式は地元茨城県の山口副知事をはじめ茨城県議会議長、つくば市長、

全日私幼連会長 香川敬様をはじめ多数のご来賓の方の参席の下、行われまし

輝く未来のために」と題し、独立行政法人宇宙航空研究開発機構教授 久保田孝先生の講演がありました。二〇〇三年五月九日に世界で初めて小惑星に向けて旅をした探査機『はやぶさ』の全貌のお話です。子ども達に夢や希望を与えてくれるお話でした。

研修IIは地元茨城県出身のクッキンがスクールネット代表 根本悦子先生が「幼児の食料と身体の関係」についてお話をしてくださいました。すべて何事も歴史と伝統の上に文化は成り立つ

ている。しかし食に関しては、核家族から(孤)族型になった今、食の文化は崩壊してしまっ。そうした中で、地元根付いた食文化の歴史や伝統、食べ物と身体の関係について体験談を踏まえ楽しくお話をされました。

研修IIIは『私立幼稚園の現状と課題』について参加各県の私学行政担当者より報告がありました。具体的には以下

- ①補助金の現状について
②認定こども園の各県の移行状況
③安心子ども基金による施設整備
④運営費補助の執行状況
⑤今後の課題

これからの幼稚園教育を担っていくために

今年度より開催される後継者のための勉強会に参加しました。渡邊眞一先生による講演では、先輩の先生方と積極的に関わることで学びの場を多く持つこと、嗅覚を研ぎ澄ますことで時代のニーズや情報を感じ取り行動するタイミングを見極めること、自分の思いを言葉で残し、そして届ける「モノ」を書くことの重みなど先生ご自身が今日に至るまでの経験を元に話をして下さいました。 付箋紙を使ったディスカッションでは、悩みや楽しい事、やりがいを出し合いグルーピングすることで意見を共有し、子どもと関わる素晴らしさや幼児教育をとりまく新システムについて思うことなど、本音で話し合うことができました。 今回勉強会に参加し、渡邊先生が冒頭に話された「今日は本気で語る」という言葉が印象的であり、また、経験年数や園の教育方針は違うものの参加された先生方と「後継者」という同じ立場で語り合えたことは大変有意義でありました。次回も是非参加させて頂きたいと思えます。

研修IVは文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長 蝦名善之様の『改定こども園の今後の展開』と題し、子ども子育て支援の新制度についての報告がありました。

二日間の有意義な研修会是我々に多くの問題提起をしてくれました。 開催県の茨城県では、多くの園が認定子ども園に移行することを希望しているという報告がありました。これからの短期間に私達も新制度下における新たな形態を選択しなければなりません。情報の少なさや行政サイドの努力不足等により選択を間違えない様に致したいと思えます。 この協議会に参加し、大変参考になりました。



地区協会長は

考える

前回よりシリーズでお送りしている地区協会長は考える。今回は横浜協会の協会長にお聞きしました。

横浜協

新制度のもと県連の企画調整力に期待

木元 茂

公益社団法人横浜市幼稚園協会



横浜市は、人口が三七〇万人目前となり、全国でも最大の都市です。横浜協会加盟園は十八の行政区に二五九園、園児数は五三、七〇〇名、教職員数は約四、〇〇〇名を数えます。横浜協会はこの四月に公益社団法人になりました。横浜市内には公立幼稚園が皆無のため、横浜の幼児教育はまさに私立幼稚園の肩にかかっています。私立幼稚園の果たすべき公的な役割を踏まえて、公益社団法人への移行は当然の選択でした。

十八支部それぞれで研修会・研究会を開催し、さらに協会としても研修会・研究会を様々な開催し、年間での参加者数は延べ一八、八〇〇名となります。今後は協会加盟園だけではなく、オープンにして多くの方々にも参加いただけるよう、横浜の素晴らしい研修プログラムを外部に発信してまいります。

さて、子ども・子育て三法の実施に伴い、加盟園が最良の判断をするための材料を提供することに尽力してまいります。

特に政令市として、横浜市と独自に交渉を行うことになり、同じ政令市の川崎・相模原や中核市の横須賀の各協会の先生方とも情報交換を密にしつつ、現状の私学助成を希望する園の為に県連の活動には一層協力してまいります。

このような中、県連に望むこととしては、新制度実施に伴う市町村レベルの情報交換の企画・開催をお願いいたします。もう一つは、今後の教員・保育士の不足は目に見えています。ゆえに、教員免許更新講習会の実施回数をもっと増やし、現職教員を支援することに加え、結婚・子育てで家庭に入っていて免許を失効している方々を再度教育し、保育の現場にカムバックさせるための施策や教員免許のみの所持者に対する保育士資格取得のバックアップ制度の創設など、一協会では対応できないテーマに取り組んで頂くよう、切にお願いいたします。

平成24年11月13日
パシフィコ横浜
メインホール



子どもの個性を信じて、リスペクトする

平成24年度神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 研修大会報告

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会
副会長 浅川 香珠代

開会式が終了し、現在キャスターとして活躍され、二歳のご子息を持ち、第二子を妊娠中でいらっしゃる内田恭子さんをお迎えし、「子どもをとおして、広がる世界」と題して西鎌倉幼稚園園長 福田光葉先生との対談形式で講演が行なわれました。

英語を使った仕事があったらと思う大学三年の冬にフジテレビの面接を受け、入社前には全く経験がなかったのに、「このままでよいのか」と不安に思いながら仕事を始められた内田さん。しかし回数をこなすうちに自信が持てるようになり、これまでの取材や経験から仕事や日常でも「伝える事は簡単なようだが難しい」と思われたそうです。私達もただ日々の家事や子育てをこなすのに精一杯で「子ども達の伝えたいことや自分の伝えたいことをお互いに充分理解する時間が持てているか？」と疑問に思いました。

まだ幼い子ども達が、その日にあったことや感じたことを一生懸命に伝えようとしている時、自分ほどのような態度をとっているかと改めて考えさせられ深く反省しました。テレビ局を退社後、ご結婚なさり、そ



おだやかな秋晴れの中、会場には県内各地より多くの皆様にお集まり頂きました。開会式では主催者より幼保一体化など、今の子ども達を取り巻く厳しい環境のもと、家庭・幼稚園・地域社会の愛情を持った子育ての重要性を訴える挨拶に続き、ご多忙の中、会場まで駆けつけてくださいましたご来賓の神奈川県副知事 黒川雅雄様、神奈川県議会副議長 笠間茂治様のお二方におかれましては、幼稚園教育に対するご理解のあるお言葉と共に子育て支援のさらなる拡充をとの力強いご挨拶を頂きました。改めて私達の子育ては多くのご支援とご協力のもとに成り立っているのだと感謝を

課題と成果

課題点としては参加学生数の減少をどう受け止めるか。周知方法の再検討。来会者の学生居住地の偏在(横浜・川崎地区で全参加者の56%)に伴う賑わいの濃淡。協会差が今年も顕著でした。とりわけ県西部の学生が著しく少なかったこと(大磯在住の学生1名が参加者の県西地域界)など2回の会を経て課題点も見えてきました。開催時期、方法、エリアも含めどこまでやるか、(或いは、どこで割り切るか)私達の姿勢が問われる所です。

他方、成果としては昨年の経験を活かし、幼稚園の魅力を各協会単位で情報発信できました。発表形式、配布資料、掲示物、テーブル装飾等、先生方の知恵が活かされた魅力的な会場ができたこと、双方向のコミュニケーションの場となったこと等が挙げられます。また県連加盟の先生方とイベント作りを通じて、普段接することの少ない他協会の先生方との理解や協力の輪(和)が広がりました。教育者として、また経営者として、様々な思いを共有できたことは貴重な宝です。

小さな力の積み重ねと協力の大切さを教えて下さった諸先生方に心より感謝と御礼を申し上げ、平成24年度「就職相談会」レポートとさせていただきます。御協力ありがとうございました。

就職相談会報告

幼稚園の魅力伝える

平成24年9月8日(土) 10時~15時

かながわようちえん会館にて



経営管理部次長 池田 清

平成23年度にスタートした経営管理部主催の就職相談会も今年で2回目を迎えました。経営部員をはじめ各協会の先生方の協力の下、今年も養成校の学生の参加者112名をかながわようちえん会館に迎え、賑やかに実りある会を実施できましたことをご報告させていただきます。

来場者状況は次の通りです。

学 生 112名 (前年161名 前年比30%減)

参加校数 25校 (前年 23校 前年比8%増)

本会のねらいは、養成校の学生に本県の私立幼稚園の魅力と現場の様子を設置者・園長自らが語り伝え、その魅力を周知することにあります。背景には昨今の希望者減に伴う採用難時代の本格的到来があることは言うまでもありません。



教育相談室から

土曜日は巨峰を買いに

教育相談員 鈴木 敦子先生 (臨床発達心理士)



相談の申し込み

電話にて(社)神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申し込みください。

TEL 045-440-3210

「子どもの不甲斐ない振る舞いにイライラします」という相談がありました。よくよく話を伺っているうちに、「あっ、イライラしていたのは私の方だったんですね」と相談者ご本人が気づかれました。つまり、子どもにイライラさせられていた訳ではなく、まず自分自身がイライラした状態だった訳です。

こういう逆転はよくあります。どうも人間は何かによってある状態にさせられていると思いたいです。でもそのことに薄々気づいていきます。私のことですが、うちの娘は果物が嫌いでリンゴ、イチゴも嫌みかんなども嫌うので、甘酸っぱいのがダメなんだそうです。それでも巨峰は好きです。ただしどう皮を剥かなくてはなりません。平日の朝にそんな時間の余裕はなく、食べることでできるのは日曜日の朝のみ。野菜を十分食べさせているので栄養的に問題ないことはわかっています。それでも果物にはペクチンが入っていてお腹によいなど理由をつけ、娘の偏食に苦勞させられつつ何とか果物を食べさせたい母を演じています。なので土曜日には巨峰を買いに行きます。



今回の研修大会で内田さんのお話を聞くことができ、自分の子育てを改めて考えるとても有意義な時間が持てました。



編集後記

From the Public Relations Section

今夏は連日猛暑の中、関東地区教員研修大会が開催されました。参加された先生方は暑さに負けることなく研修に邁進され、その様子を広報室は記録として約8,000枚に上る写真を撮影し、即日ホームページに掲載しました。暑さは10月に入っても続き、秋が来るのかと思うほどでした。しかし、自然界では、時期が来れば彼岸花が開花し、11月に入ると木々は紅葉を始め、日増しに冷え込んで来ました。我々の幼稚園界は混沌とする中、今後どのようになってしまうのか、今こそ我々は教育者としてのプライドを失う事なく、幼児教育に今一層専念し、自然界のように暖かい春が来ることを念じ、新年を迎えたいものです。

広報室 高野 正基

平成24年度 教育者表彰

平成24年11月21日付けの発表で、学校法人北鎌倉学園おおぞら幼稚園の理事長兼園長である山田誠一先生が教育者表彰を文部科学省より受賞されました。おめでとうございます。



学校法人北鎌倉学園
おおぞら幼稚園
山田 誠一 先生
(理事長・園長)



教育者表彰文部科学省では毎年度、大学及び高等専門学校を除く国立学校、公立学校又は私立学校の校長、園長又は教員であって、学校教育の振興に関し特に顕著な功績のあった方々に対して、文部科学大臣表彰を行っています。

平成24年度 神奈川県私立学校教育功労者表彰

神奈川県私立学校教育功労者表彰要項に基づく平成24年度教育功労者表彰の受賞者が決定し、平成24年11月27日(火)、神奈川県庁新庁舎において表彰式が行われました。

今年度の受賞者は、下記の通りです。おめでとうございます。



学校法人金子学園
上の原幼稚園
金子 敏明 先生
(理事長・園長)



学校法人麻生学園
川崎青葉幼稚園
井上 久 先生
(理事長・園長)



学校法人づし学園
逗子幼稚園
第二逗子幼稚園
森本 恵美 先生
(理事長・園長)



教育功労者表彰は、私立学校教育の振興を図るため、知事所轄の私立学校の教職員、校長園長、理事長及び設置者等として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた者を表彰することを目的としています。校長園長、理事長及び設置者等においては、私立学校の充実、振興のために献身的に尽力し、その功績が特に顕著であり、神奈川県内での私学歴が25年以上の方を対象としています。

研修会報告

■ 研究部主催 ■ 研修事業部主催

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数
8/29(水)	幼保一体化問題学習会	かながわ ようちえん会館 横浜ジャスト会議室	遊育 U-IKU 編集長 吉田 正幸 氏	「国の現状を客観的に理解し、今後をどの様に判断すべきか！」	115人
9/25(火)				「新しい仕組みを幼稚園はどう受け止めたらよいか、幼稚園としての可能性は？」	106人
11/ 9(金)				「幼保一体化問題 より理解を深めるQ&A」	96人
9/ 5(水)	相和オープン講座	綾瀬市中央公民館	教育評論家・児童文学作家 漆原 智良 先生	『保育は子どもの輝きから!!』	69人
9/12(水)	茅ヶ崎オープン講座	茅ヶ崎恵泉幼稚園	キープ協会自然学校保育士 カメラマン 小西 貴士 先生	『子どもと森に出かけてみれば』 -お話しとスライド-	53人
9/15(土)	連続研修会 『園内研修』	かながわ ようちえん会館	大妻女子大学 教授 岡 健 先生	第1回	39人
9/21(金)				第2回	41人
10/17(水)				第3回	33人
9/20(木)	第3回 統合保育 基礎講座	かながわ ようちえん会館	Nippon Data社会福祉研究所副所長・ 教育福祉研究室室長 精神保健福祉士 上原 文 先生	第3回 『家庭支援について考える』 ～ほんとうの家族支援とは～	112人
11/15(木)				第4回	第4回 『家庭支援について考える-II』 ～家族支援に必要な具体的な知識と技術～
9/26(水)	若手後継者のための 保育勉強会	かながわ ようちえん会館	(社)神奈川私立幼稚園連合会 会長 渡邊 眞一 先生	『魅力ある園長先生になる為には』 ～これからの幼稚園教育を担う次世代へ～	33人
10/17(水)	相模原オープン講座	うのもり幼稚園	日本レクリエーション協会レクリエーションコー ディネーター神奈川県レクリエーション協会公認 講師 さがみネイチャーゲームの会 運営委員会 岡田 彰 先生	『園庭の環境をいかすネイチャーゲーム』	29人
10/31(水)	新規採用教員研修会	神奈川県立体育セ ンター アリーナ	玉川大学学術研究所 心の教育実践センターTAP 白山 明秀 先生	『体験しようアドベンチャー教育 第2回』	150人
11/ 7(水)	いじめ問題講習会 公開研究保育研修会	相模林間幼稚園	鎌倉女子大学 教授 佐藤 康富 先生	『公開保育』	33人
11/13(火)	父母の会連合会 研修大会	パシフィック横浜会館セ ンター メインホール	キャスター 内田 恭子 氏	『子どもをとおして、広がる世界』	941人
11/14(水)	川崎オープン講座	川崎市中原市民館 ホール	洗足こども短期大学 向笠 京子 先生	『現代の子どもの健康問題とその対応』	84人
11/21(水)	10年経験者研修会	かながわ ようちえん会館	安部幼稚園 園長 安部 富士男 先生	『倉橋惣三の精神とその現代的意味について』	50人
11/21(水)	逗葉オープン講座	聖マリア幼稚園 ホール	日本体育大学 運動方法体操研究室 准教授 三宅 良輔 先生	『日常生活での運動経験や体づくり』	60人
11/27(火)	若手後継者のための 保育勉強会	私設幼稚園 虹の丘	浜竹幼稚園副園長 私設幼稚園虹の丘代表 山田 昇 先生	『今日の日本の子どもたちの現状と、 幼児教育のすべきこと』	20人 (予定)
11/28(水)	横須賀オープン講座	横須賀三浦 教育会館ホール	作詞家 渡辺 なつみ 先生	『いのちは輝くもの』～命を歌にのせて～	80人 (予定)